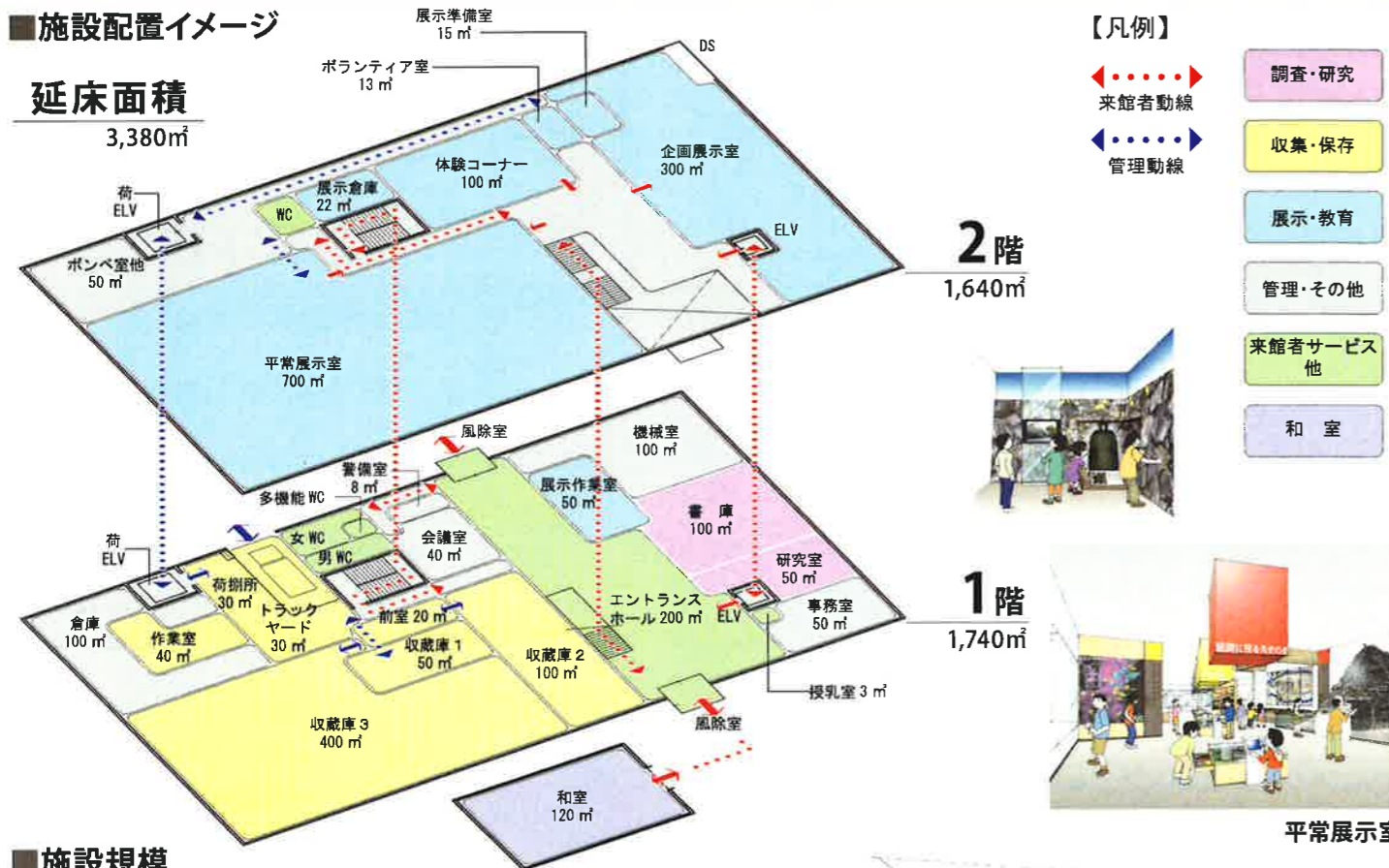


5. 施設計画イメージ

施設配置イメージ



施設規模

部門	内藤記念館(㎡)	新施設(㎡)
展示・教育 展示室ほか	721.0	1,200.0
収集・保存・調査・研究 収蔵庫・書庫ほか	105.4	820.0
管理・その他 受付・事務室・トイレほか	570.0	1,360.0
合計	1,396.4	3,380.0
和室棟	—	120.0

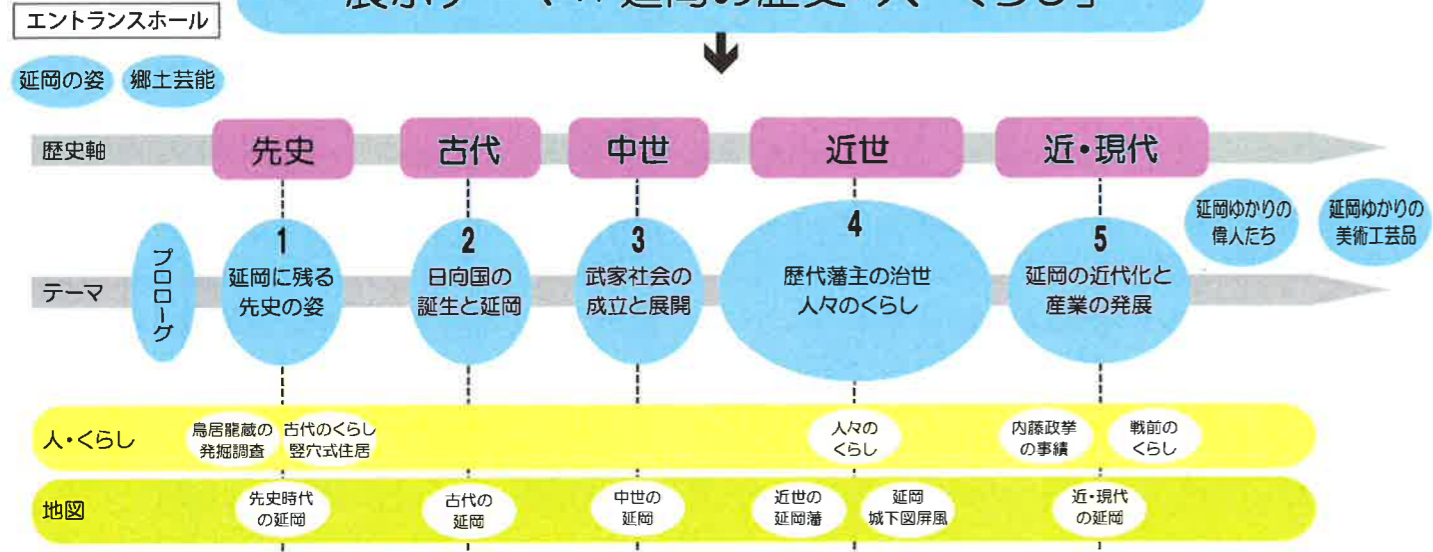


6. 展示計画イメージ

展示の展開

市民が歴史を学び、現在との結びつきを意識でき、延岡の歴史や文化の魅力を最大限に伝えることができる展示

展示テーマ:「延岡の歴史・人・暮らし」



内藤記念館再整備 基本構想・基本計画(概要版)

1. 施設整備の基本理念

市民懇談会での意見や市民アンケートの結果等によると、新施設への期待として、延岡というまちの良さをよく学ぶことで、故郷延岡への誇りを醸成したいという意見が数多くみられました。このような意見を具現化するためには、延岡としての「誇り」を形成する資源を、広く知っていただく役割を担う施設づくりが求められます。

こうした市民の声を踏まえ、新施設の整備にあたっては「延岡の歴史を学び継承し、未来を創造する拠点」の実現を目指すものとします。

市民が新施設に求めるもの

- 故郷に自信と誇りを持ちたい
- まちの活性化につなげたい
- 人に紹介できる魅力ある施設が欲しい
- 多くの人に延岡に来てもらいたい(延岡の良さをもっと知って欲しい)
- 歴史・文化の拠点となる施設が欲しい
- 子どもが体験・体感できる施設が欲しい

施設整備のコンセプト

延岡の歴史を学び継承し、未来を創造する拠点

- 貴重な歴史資料を収集・保存・活用し継承します
- 郷土への誇りや愛着を醸成します
- 市民が積極的に活動し交流する機会を提供します
- 市内の歴史資料関連施設の拠点とします
- 魅力的な芸術作品や歴史資料を鑑賞できる展示会を開催します
- 歴史と文化を観光に活かします

延岡の歴史・文化を語る資源

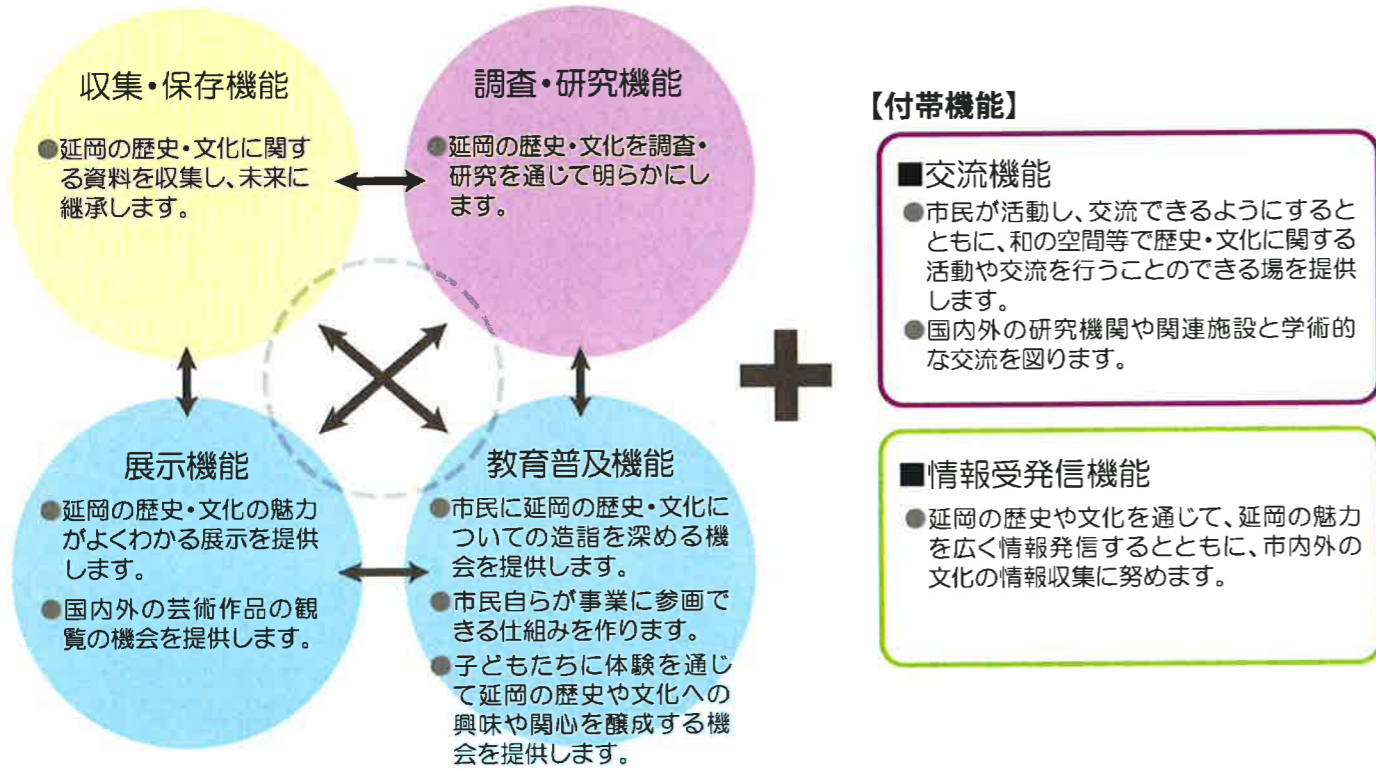
- 延岡城跡(城山公園)
- 旧藩主・内藤家の歴史・美術工芸資料(能狂言面や武具・調度品など)
- 古墳などの遺跡や発掘された遺物
- 西南戦争
- 旭化成と延岡の関わり
- 郷土芸能(神楽や団七踊りなど)
- 歴代の延岡藩主の資料
- 昭和のくらしや生活の道具
- 第二次世界大戦と延岡(延岡大空襲)
- 延岡ゆかりの偉人(若山牧水や後藤勇吉など)

2. 施設整備の基本方針

- (1) 歴史的景観に配慮した建築意匠
延岡城跡との一帯性、旧藩主内藤家の邸宅跡という立地性を考慮し、歴史的景観に配慮した建築意匠とする。
- (2) 歴史に配慮した修景整備
庭園専門家の監修を受けながら、敷地内にある歴史的な石造物や、静思庵(古民家)などを活かす。また庭や建物から城山が展望できる修景として整備を行う。
- (3) 「重要文化財の公開承認施設」を目標とした整備
質の高い展示を行い、文化レベルのさらなる向上を図るため、「重要文化財の公開承認施設」を目指す。
- (4) 人に優しい施設
来館者が安心して楽しめるよう、ユニバーサルデザインに配慮した施設とする。また、職員にとっても使いやすく、管理しやすい機能的な空間とする。
- (5) 既存施設との連携
教育普及機能の充実を図るため、社会教育センターなどの既存施設との連携を図る。
- (6) 環境配慮・ランニングコスト軽減
を視野に入れた仕様・機器の設定
環境型素材の採用や、ランニングコストの軽減を視野に入れた機器の選定などを実施。

3. 新施設の機能

「延岡の歴史を学び継承し、未来を創造する拠点」とするために、博物館の基本的機能である、収集・保存、調査・研究、展示、教育普及機能に加え、付帯機能として、交流機能、情報受発信機能を設けます。また、各機能を充足させる事業を計画し、各機能を効果的に連動させることで、事業の充実を図ります。



4. 新施設で行う事業

1. 収集・保存事業

●市内を中心に残されている歴史・文化資料を収集するとともに、最新の保存科学を学びながら、資料を適切・安全に守ります。

(1) 収集・保存の対象となる資料

- ①延岡の歴史・文化を理解するために必要な歴史・考古・民俗・美術工芸資料
- ②一次資料を補完する複製や模型をはじめ、それぞれの分野の専門図書等の文献資料など

(2) 収集方法

- ①発掘、購入、寄贈、寄託、製作、借入など。
- ②市民や利用者、また全国の研究者や博物館等の関係機関などと協力・連携。
- ③必要に応じて、資料の評価委員会等を設置。

(3) 資料の保存

公開承認施設として必要な設備を備えた収蔵庫や展示ケースを設置。

(4) 資料の修復

劣化や破損した資料は、適時外部委託による修復を実施。

(5) 資料のデジタル化

台帳や写真などのデジタル化、収蔵資料のデジタル画像による記録化を実施。

(6) 資料データベースの作成と管理

デジタル化した情報を元にデータベースを作成し、資料を管理。

2. 調査・研究事業

●調査・研究体制を強化し、広範で深度のある調査・研究を推進して、その成果を市民に還元します。

(1) 調査・研究概要

- ①歴史(古代から近・現代まで)に関わる調査・研究
- ②内藤家文書に関わる調査・研究
※明治大学博物館との連携を図りながら進める。
- ③考古に関わる調査・研究
- ④民俗に関わる調査・研究
- ⑤美術工芸に関わる調査・研究
- ⑥教育普及やワークショップに関わる調査・研究

(2) 調査・研究にあたる人員の配置

考古、歴史、民俗、美術工芸、教育普及などの分野を担当とする学芸員の増員を検討。

(3) 調査・研究成果の報告

- ①展示
最新の調査・研究成果を展示で紹介。
- ②講座・講演会
最新の調査・研究成果を講座や講演会を通じて発表。
- ③紀要・報告書の発行
紀要や報告書などを発行し、調査・研究成果を発表。
- ④図録の作成
展覧会などに際しては図録を作成。
- ⑤インターネットを利用した報告
調査・研究成果は、インターネットで全国に発信。

3. 展示事業

●延岡の歴史・文化を紹介する平常展示を行うとともに、貴重な歴史資料や美術作品を公開する企画展・特別展を開催します。

(1) 平常展示の実施

収蔵する実物資料を積極的に活用して、延岡の先史時代から現代に至るまでの歴史や文化について、時代や分野に基づくテーマを設定し、年4回程度、一部の展示替えを行いながら紹介。

(2) 企画展・特別展の開催

「能面展」など、平常展示では伝えきれない内容や新しい研究成果に基づく自主企画展や、他の博物館や美術館などが所蔵する重要文化財に指定された歴史資料や美術作品等を借用して展示する特別展・巡回展などを開催。

(3) 屋外展示

- ①敷地内に伝存する、旧藩主内藤家邸宅当時の面影を残す東門やカラミ煉瓦・土蔵をはじめ、市内各地より移設してきた六地藏幢や石棺などの資料を屋外展示として整備し、館内での展示と連携した活用を図る。
- ②延岡城跡(城山公園)も屋外展示として位置づけ、解説板や案内板等の設置を検討。

4. 教育普及事業

●市民を対象とした講座や講演会などの開催、また親子や子どもを対象とした教育機会を創出します。
●ボランティアを養成し、共に活動します。

(1) 市民を対象とした教育普及事業

- ①延岡の歴史・文化に関わる講演会の開催
- ②古文書講座
- ③美術鑑賞講座
- ④ギャラリー・トーク(展示解説)
- ⑤静思庵(古民家)を用いたワークショップ

(3) 学校教育との連携

- ①教育プログラムの開発
- ②学習支援体制の整備
- ③職場体験の受け入れ
- ④博物館実習の受け入れ

(4) 出前講座

学校をはじめ、市内の各地区や様々な団体等の集会やイベントの場などに学芸員を派遣。

(5) ボランティアの育成

- ①市民学芸員制度
- ②能面ガイドの会など

(2) 子どもを中心とした教育普及事業

- ①体験コーナーの設置
- ②学芸員の仕事を学ぶワークショップ
- ③親子を対象としたワークショップ



5. 交流事業

●市民が主体的に活動が行えるよう、サポートをします。
●国内外の研究機関や関連施設と、展示会における資料の貸借や共同研究などを通じて交流を図ります。

(1) 友の会の設立支援

新施設の諸事業を通じて、延岡の歴史・文化について学びながら、新施設の活動に積極的に参加・協力する、市民が主体的に活動し、交流することのできる組織の設立を支援。

(2) 市民が中心となる活動の場の提供

歴史・文化に関する各種団体が、自主的な活動やイベントなどを開催し、交流を図る場を創出し、茶道や華道などの伝統文化に関わる活動を行うことのできる、和の空間を提供。



(3) 市内イベント等との連動

民間団体と連携しながら、「のべおか天下一新能」、「カルチャーゾーンフェスタ」、「延岡花物語」などの文化や観光イベントと連動した交流事業を実施。

(4) 国内外の研究機関や関連施設との連携

延岡の歴史や能面など、新施設が担う分野に関連する国内外の研究機関や関連施設と交流・連携。

6. 情報受発信事業

●延岡の歴史・文化について、ガイダンスやインフォメーションを行います。
●インターネットや印刷物を効果的に用いて、新施設の活動を広く紹介します。

(1) ガイダンス・インフォメーション活動

延岡の歴史・文化や市内外の博物館活動に関することについて、専門的な立場から、気軽にきめ細やかなレファレンス対応を行い、延岡市内の史跡や見どころ等についての情報も提供。



(2) インターネットを用いた情報発信

新施設独自のホームページ(日本語・英語)を作成し、インターネットを通じての情報発信や、近年普及が拡大しているソーシャルメディアの活用も検討。

(3) 年報による情報発信

新施設の事業について、1年に一度年報としてまとめて、関連施設等に配布し、ホームページなどを通じて公開。

(4) ミュージアムレターによる情報発信

半年ごとにミュージアムレターを作成し、来館者や関係施設等に配布。

(5) 市や関連団体の広報媒体を利用した情報発信

関連団体の広報媒体を活用した情報発信を実施。

(6) 関連施設についての情報発信

関連施設から寄せられた案内やポスターなどを館内に掲示。